# 科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 26 年 6月13日現在

機関番号: 13101 研究種目: 若手研究(B) 研究期間: 2011~2013

課題番号: 23720343

研究課題名(和文)前近代ベトナムにおける地方行政システムの解明:地方文書の古文書学的検討を通じて

研究課題名(英文)Local administration system in early modern Vietnam

#### 研究代表者

蓮田 隆志 (Hasuda, Takashi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号:20512247

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文): ハノイ近郊、タインホア省、ゲアン省、ハティン省にて現地調査を行い、現地で多数の文書 史料を収集することができた。これらを活用して、宗族の活動や政権と地域社会の関係の観点から分析を進めた。 その結果は、順次論文として刊行する予定だが、現在まで3本の学術論文が本課題で収集した史料を主要素材として遂 行された研究の成果として刊行されている。成功を収めた大族が母貫地の地域社会と接点を持ち、地域社会側が積極的 にこれを利用していたことが判明した。

研究成果の概要(英文): During three years project, I researched fore provinces: Hanoi, Thanh Hoa, Nghe An and Ha Tinh then found out many local source materials. Using these sources, especially family chronicle and stone inscription, I have published three articles on academic journals.

研究分野: 人文学

科研費の分科・細目: 史学・東洋史

キーワード: ベトナム 近世 文書

#### 1.研究開始当初の背景

- ・前近代ベトナム国家論と地方行政:ベトナ ムが歴史的に漢字文化圏に属し中国式の 国家制度を採用したが、80~90 年代には その内実が問題とされた。非中国的要素や ベトナム「独自」要素の解明が進み、O. Wolters のマンダラ論などが東南アジア諸 国との共通性を強調するなど、「ベトナム = 中国のデッドコピー」という単純な理解 は過去のものとなったが、王権の性格の違 いを示すものとして地方統治・支配のあり 方が重要な論点となった。90年代の半ば以 降はこの成果を踏まえた上で、再度中国周 辺にあって中国式システムを取り入れた 日本や朝鮮との比較への道が開けた。桃木 至朗や八尾隆生が東アジア小農社会論の ベトナムへの適用を試みたのもその一環 で、ここでも地方社会のありようが問題と なっている。豊富な史料をもつ中国や日本 に対して、制度史料が貧弱なベトナム史は マンダラ論や港市国家論など東南アジア 史研究から生み出された理論研究に依拠 しての貢献が主であり、一次史料から組み 立てた具体的史実をもって国家機構や行 政システムの異同を比較する段階に進む べき状況に来ている。
- ・史料状況の変化と限界:ドイモイ(刷新) 政策が軌道に乗った 90 年代以降、外国人 の現地調査が可能となり、大量の村落史料 (金石文や契約文書、族譜など)が発見さ れた。これに刺激を受けたベトナム側も村 落調査を精力的に展開し、ユネスコなどの 資金協力も得て、史料の公刊が進んでいる。 ベトナム国内所蔵の文字史料へのアクセ シビリティが大幅に改善し、大阪大の上田 新也やトロント大の Nhung Tuyet Tran と いった若手研究者が石刻史料を中心に用 いた研究を発表している。これらの村落史 料は地方行政の現場で用いられた一次史 料を大量に含んでおり、しかも時代的には 16~20世紀の長期にわたる。中央官庁 レベルでの文書もんじょ史料が極めて限 られているベトナム史において、一次史料 に立脚して国家の性格や支配の様相を明 らかにしようとすれば、地方行政こそがも っとも適当な領域なのである。ただし、石 刻や族譜は影印での公刊が進んでいるも のの、文書史料についてはベトナム語訳で の紹介が主のため、印や抬頭といった文書 の様式・形式を検討するには限界があり、 現地調査によって現物を収集・確認する必 要がある。

# 2.研究の目的

本研究は前近代ベトナム国家の構造を解明する一環として、その地方行政システムを、一次史料である地方文書を用いて再構成することを目的とする。国家が社会を統治しそこから人的・物的な財を吸い上げる"最前線の現場"が地方行政であり、その機構とパフ

ォーマンスは当該国家の構造や性格を具体 的に明らかにしてくれる分野である。

本研究は、 中国的行政システムの移入とその現地化という長期にわたる過程が存在し、これが問題とされなければベトナム国家の特質を捉えられない、 日本や朝鮮など同様の歴史的経験を持つ諸国との比較を意識せねばならないという2点の問題意識から、課題名を時代を特定せずに「前近代ベトナム」とする。

#### 3. 研究の方法

村落での現地調査を通じて、地域に保存されている各種史料を収集し、これを主要素材として分析した。

- ・研究対象:近20年のベトナム内外での史料状況改善とそれによる研究成果の蓄積を踏まえ、本研究は現地調査で収集された村落史料のうち、行政文書を主たる研究対象とする。これにより編纂史料から組み立てられた規範的な国家像を相対化することで、日本や朝鮮などと実態のレベルでの広域比較への道を開くことが可能となる。
- ・研究方法:申請者は過去に行った現地調査 にて一定量の行政文書を収集している(業 績欄 1・2)が地域的・時代的に偏りがあ る。そこで本研究では、これまで調査の及 んでいない地域で現地調査を行って行政 文書を収集し両者を併せて分析する。これ によって単に史料の偏りを是正するだけ でなく、地域差の有無を検討することが可 能となる。具体的には、北部ベトナム紅河 デルタ地域・北中部きたちゅうぶ地域の村 落に赴き古老宅や村の神社などに保管さ れている古文書(辞令(勅)や納税証明書・ 上申書(禀)など)をデジタルカメラにて 撮影する。族譜や金石文など関連史料もで きる限り収集する。収集した行政文書を群 として把握して古文書学的角度から検討 を加え、(A)文書がどのように取り交わ されるのかという文書の伝達ルートの確 定とモデル化、(B) 各種文書様式の分類 と機能の確定。を行う。これらを通じて地 方行政システムとその働きを解明する。

#### 4. 研究成果

収集された村落史料から、同族組織(ゾンホ)の重要性が改めて、史料的根拠をもって確認された。同時に、その地域差・時代差・階層差の相互関係を適切に腑分けし、関係づける必要が明らかとなった。以下、代表的成果を挙げる:

「旧例と憑 近世中部ベトナム村落の生存戦略」(新潟大学環東アジア研究センター(編)『環東アジア地域における社会的結合と災害』所収)においては、中部フエの村落文書を用いて、村落行政および村落と地方官がとの関係を解明するとともに、中央政府と村落との交渉についても検討した。政府は

村落との直接交渉のチャンネルを維持していたが、その回路は、権益の授与と補償によって保たれていた。村落側は獲得した利益を「旧例」という概念で既得権益化することで、これを恒久的なものにしようと図っていたが、これらの交渉は、全て文書によってなされていた。

「文理侯陳公補考」(『東アジア 歴史と文化』23)では、北中部ハティン省の宗族文書を用いて石刻文の再検討および石碑成立の背景を解明することができた。

とりわけ、相続に関連しての上申文書によって、石碑の再刻の可能性が判明した。また、族譜から、外交文書に見られながらも正体が不明だった人物の素性が判明した。これにより、地方の交易活動において、宦官はその縁者を部下として用いていたことが証明された。つまり、17世紀初頭の地方統治は、地域有力者に相当な権限が移譲され、かつ非制度的な要素が強かったと考えられる。これは従来、予想されていなかった結果である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

## 〔雑誌論文〕(計 4件)

- 1. <u>蓮田隆志</u>「文理侯陳公補考」『東アジア 歴史と文化』23、pp.29-49、査読無、 2014 年 3 月。
- 2. <u>蓮田隆志</u>「ミエン集落磨崖碑と成立期の ベトナム後期黎朝」『資料学研究』11、 pp.1-14、査読有、2014年3月。
- 3. <u>蓮田隆志</u>「ベント・ティエン「アンナン 国の歴史」簡紹 情報の流通と保存 の観点から」『環東アジア研究センター 年報』8、pp.1-30、査読無、2013 年 2
- 4. <u>蓮田隆志</u>「近世ベトナムについて」『歴 史と地理』656(世界史の研究232)東 京:山川出版社、pp.35-40、査読無、2012 年8月。

### [学会発表](計 4件)

- 1. <u>蓮田隆志</u>「新発見の日本国王宛書翰にみる黎明期の日越交渉とアジア海域世界」 木浦大學校島嶼文化研究院 30 周年・海域アジア史研究会 20 周年記念 共同学術会議「島と海から見た歴史」、2013 年 12 月 2 日、於 國立海洋文化財研究所(韓国・モッポ)。
- 2. <u>蓮田隆志「17世紀ベトナムにおける歴史</u> 知識と修史について」第89回東南アジ ア学会研究大会、2013年6月1日、於鹿 児島大学
- 3. <u>蓮田隆志</u>「16・17 世紀ベトナムの政権構造」第 61 回新潟史学会研究大会、2011 年 11 月 6 日、於 新潟大学
- 4. <u>Hasuda Takashi</u>. "Divergence in Eastern Eurasia and 'integrated' Vietnam". The

World/Global history Joint Workshop: Regional Diversity and Eurasian Linkage in the Eighteenth and Nineteenth Centuries, 5 Oct. 2011, Institute for Advanced Studies on Asia, Tokyo University.

### [図書](計 4件)

- 1. 關尾史郎 (編) 『環東アジア地域の歴史 と「情報」』知泉書館、2014年3月、分 担執筆。
- 2. ジョヴァンニ・フィリッポ・デ・マリニ (著) 新潟大学環東アジア研究センター(編)『《復刊》『トンキン王国の新奇な話』』、新潟:新潟大学人文社会・教育科学系附置環東アジア研究センター、2014年2月、分担執筆。
- 3. Fujita Kayojko, Momoki Shiro and Anthony Reid, eds. Offshore Asia: Maritime Interactions in Eastern Asia before Steamships. Singapore: ISEAS Publishing, Sept. 2013、分担執筆.
- 4. 新潟大学人文社会・教育科学系附置環東 アジア研究センター(編)『環東アジア 地域における社会的結合と災害』(環東 アジア研究叢書1)新潟:新潟大学人 文社会・教育科学系附置環東アジア研究 センター、2012年3月、分担執筆。

### 〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:者: 発明者: 種類:: 種野県年月日: 国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 日日: 国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

https://niigata-u.academia.edu/TakashiHasuda

6.研究組織

(1)研究代表者

蓮田 隆志 (Hasuda Takashi) 新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授 研究者番号:20512247

(2)研究分担者	(	)
研究者番号:		
(3)連携研究者		
	(	)
研究者番号:		